

2024年4月

新社屋「ミキモトビル」完成のお知らせ

ミキモトのオフィス一部機能と、子会社・ミキモト装身具の工場および本社を移転
さらなる生産力向上と効率化、サステナブルなオフィス環境を実現

株式会社ミキモト（東京都中央区銀座 代表取締役社長 中西伸一）は、2024年4月23日（火）に、新社屋ミキモトビル（東京都江東区南砂）を完成させました。ミキモトビルにはミキモトのオフィス機能の一部と、子会社でジュエリーの製造を行う株式会社ミキモト装身具（代表取締役社長 中嶋秀利）の工場および本社を移転します。

※（株）ミキモト本店所在地（東京都中央区銀座）に変更はありません。



【ミキモトビル建設の背景】

創業者 御木本幸吉は1907年、ミキモト装身具の前身となる御木本金細工工場を創設しました。1972年、生産工場の近代化を目的とし旧本社屋（東京都目黒区青葉台）に移転し、ミキモトのジュエリー製造を行ってきました。竣工から50年が経ち、建物の老朽化への対応と、生産機能の合理化による更なる生産力の向上と効率化を目的に、ミキモトのオフィスの一部機能とミキモト装身具を移転する運びとなりました。今回のビルの完成を機に、よりグループ会社間の連携を図り、これまで以上にお客様をはじめ、ビジネスパートナーや従業員に愛され信頼されるグローバルカンパニーを目指してまいります。

【サステナビリティへの取り組み】

ミキモトビルでは、「自然環境に配慮し、サステナブルな社会の実現に貢献する」という企業行動指針に基づき、以下の取り組みを行います。

1. 「江東区みどりの条例」に基づいた緑化計画を行い、公共性・地域貢献に配慮したランドスケープを形成

- **【市場で流通していない希少な品種を含むバラを移植し、潤いある環境を継承】**
旧ミキモト装身具の敷地には沢山のバラが有機栽培で育てられていました。なかには明治時代に造られた日本最古のバラ園と言われる「駒場ばら園」（東京都目黒区）で作出され、現在は市場で流通していない貴重な品種が含まれています。これらのバラの中から「希少性」という観点より厳選した 8 種類を新社屋の外構南側に設置する「ポケットエコスペース※」へ移植します。

※江東区の「みどりの条例」に基づき、地域住民が緑に親しめるよう設置するもの。



「ポケットエコスペース」完成イメージ（2028年春頃完成予定）

- **【ミキモトビルの「屋上緑化計画」】**
4階オフィスおよび5階カフェテリアのテラスにも低木や地被類を植栽予定。

2. 雨水利用による節水

地下の貯水タンクに雨水を貯め、下水に利用。超節水型の衛生器具を導入します。

3. カフェテリアの什器（椅子・テーブル）には国産の木材を使用した製品を採用。食器は再生可能素材の製品を導入。

国産の木材利用による適切な森林の保全、CO₂の固定化、森林を保全することで水質の浄化や河川を通じた栄養素の供給により、海洋の生態系保護にも貢献します。

Press Release

【新社屋概要】

名称：ミキモトビル

所在地：東京都江東区南砂7丁目11番24

代表電話番号：03-6204-9001

アクセス：東京メトロ東西線 南砂町駅より徒歩5分

敷地面積：約2152.8㎡

延床面積：約7054.9㎡

構造規模：地上5階地下1階

高さ：約22.9m

着工日：2022年4月

竣工日：2024年4月

設計・施工：鹿島建設株式会社

【MIKIMOTOについて】

1893年、MIKIMOTOの創業者 御木本幸吉は、世界で初めて真珠の養殖に成功。以来、世界で唯一とも言える、生産から販売までの一貫体制により、確かな品質、優れたデザイン、卓越した技術によるハイクオリティなジュエリーを一世紀以上にわたり提供しています。

「世界中の人々を真珠で飾りたい」と願い続けた創業者の思いを受け継ぎ、日本を代表するトップジュエラーとして、東京・銀座4丁目の本店をはじめ、パリ・ヴァンドーム広場、ニューヨーク・五番街、ロンドン・ニューボンドストリートなど各地に出店。中国、シンガポール、タイなどアジアにおいても広く店舗を展開しています。

【ミキモト装身具について】

1907年（明治40年）にミキモトの宝飾品製作のための専属工場として設立されたミキモト装身具は、ヨーロッパの宝飾製作技術をいち早く導入し、日本の伝統技術と融合させた独自のスタイルを確立させて数多くのオリジナリティあふれるジュエリーを生み出してきました。これからも磨き上げてきた技術を継承しつつ、新しい技術も取り込んで『ベストジュエリー、ベストテクニック』を追求してゆきます。